

学校評価報告書

西多賀支援学校

Ⅰ 本年度の目標

(1) 特別支援教育の専門性向上

- ①児童生徒の能力と可能性を伸ばす教育の実践と研究
- ②研修による知識と教育技術の向上
- ③自立活動の概念理解と指導力の向上
- ④障害者理解による児童生徒に寄り添う適切な教育
- ⑤外部専門家と連携した支援技術の向上

(2) 学習内容の改善と充実

- ①カリキュラム・マネジメントによる授業の評価と改善
- ②自立活動の実態把握から指導内容に至るまでの評価
- ③キャリア教育と職業教育の充実
- ④教務支援システムを活用した個別の指導計画に基づく適切な授業実践
- ⑤授業実践における三観点別評価の推進

(3) センターの機能の充実

- ①心身症、精神疾患の子供への教育支援
- ②一時入院児童生徒への教育支援
- ③就学指導等に関する教育相談機能の充実

2 本校の学校評価の運営について

(1) 実施時期

前期 7月、後期 1月

(2) 評価項目について

本年度の努力目標の達成に必要な具体的な取組を、自己評価の評価項目として設定した。保護者対象には保護者の学校へのニーズは何かという視点から質問事項を設定した(後期のみ)。

(3) 評価について(評価指標)

評価項目の各指標は、教職員対象・保護者対象ともに、A「よくできている」、B「だいたいできている」、C「あまりできていない」、D「できていない」、E「わからない」の5段階とした。ともに、A+Bを肯定的な評価を意味する評価指標と捉え、自己評価全体を捉えることとした。

3 前後期の結果

- (1) 前期自己評価(教職員) 別表1
- (2) 後期自己評価(教職員) 別表2
- (3) 自己評価(保護者) 別表3
- (4) 検討事項に対する改善案 別表4

4 成果と課題の整理

自己評価は7月（前期）及び1月（後期）に実施した。前期の自己評価対象者は教職員のみである。前期の自己評価では、「計画的な学習指導に向けた年間指導計画の作成や整備」について、また「授業実践における三観点別評価の推進」など、指導や評価等に関する課題を感じている教員が多く、前年度比でポイントを下げていた。昨年度からの計画どおり、年間指導計画の見直しや整備について、今年度の教育課程委員会として重点的に取り組むことで、学校としての系統性を鑑みた広い視点でのカリキュラムマネジメントに取り組むことができ、後期の自己評価では、肯定的な評価のポイントを上げることにつながったと考える。一方で、「児童生徒への進路に関する情報提供」については、前後期を通じて、課題として取り上げるべきポイントとなった。教育課程が複雑で、教育課程による児童生徒の実態に大きな幅がある本校にとって、適切な進路指導に向けた情報の共有や提供について難しさがあり、学校として課題であることを、学校評価をとおして改めて認識することで、担当分掌部だけでなく、学部でも改善策について検討することができた。

保護者の自己評価では、おおよそが肯定的な評価であった。保護者として、我が子が楽しく登校している様子に、安心して学校生活を見守っていることが伝わる結果であった。

5 改善策と今後の取組

課題に対する改善策について各学部、各分掌部で話し合い、学校評価全体会で情報共有し、次年度に確実に引き継いでいくことを確認した。「進路指導に関する情報提供」については、これまでの個別の進路相談会に加え、次年度は、進路説明会や進路ケース会を設けるなど、学部の段階に応じた適切な形での情報提供を行っていくことを確認した。

年度途中に、手術治療のため隣接する西多賀病院へ短期入院する小学生があり、数年ぶりに「一時入院する児童生徒への教育支援」を行った。今年度の本校小学部には、準ずる教育課程の在籍はなかったため、臨時に体制を組み、可能な範囲での支援ではあったが、在籍校や病棟と密に連携を取りながら支援をすることで、本人の学習に向かう気持ちや、治療や復学への不安などに寄り添うことができた。今年度の実績を振り返り、今後も、今年度同様な体制で支援をしていくことを確認することができた。

6 学校関係者の評価

2月に学校評議員による学校関係者評価委員会を行った。学校運営に関しては、本校に多く在籍する重度重複児が、十分な安全や健康管理のもと、楽しく充実した学校生活を送ることができていることについて、教職員の工夫や努力への労いと評価をいただいた。また、精神医療センターへのアウトリーチ型の教育相談の継続や、西多賀病院への一時入院児への学習支援対応など、病弱支援学校のセンター的機能として本校が担う役割についても、継続に向けての期待と励ましがあった。

令和6年度 前期学校評価集計結果(教職員)

(1) 【学校運営】について

評価項目	A よくできている	B だいたいできている	A+B	C あまりできていない	D できていない	E 無回答	R5年度末 A+B	A+Bの R5年度末比改善率
1 児童生徒は、楽しく意欲的に学んでいる。	47.2	52.8	100%	0	0	0	100%	0ポイント
2 児童生徒の基本的学力、生活力、豊かな心は向上している	27.8	72.2	100%	0	0	0	97%	3ポイント
3 教職員と児童生徒との取り組みは、合言葉「明るく・強く・がんばる子」を反映している。	38.9	61.1	100%	0	0	0	100%	0ポイント
4 保護者は学校の教育目標、学級の目標及び個人の目標を理解している。	27.8	72.2	100%	0	0	0	100%	0ポイント
5 年間指導計画等を適切に作成することにより、授業時数を確保し計画的に指導を行っている。	36.1	58.3	94.4%	5.6	0	0	100%	-5.6ポイント
6 指導方法の工夫・改善を図り、楽しくわかりやすい授業を行っている。	38.9	58.3	97.2%	2.8	0	0	100%	-2.8ポイント
7 児童生徒の実態把握・指導に関して、教職員は共通理解を図っている。	41.7	52.8	94.5%	2.8	2.8	0	97%	-2.5ポイント
8 個別の教育支援計画・個別の指導計画は、児童生徒及び保護者の願い及び教育的ニーズを反映している。	47.2	52.8	100%	0	0	0	97%	3ポイント
9 保護者・病院職員に対して丁寧（親切）に対応している。	47.2	52.8	100%	0	0	0	97%	3ポイント
10 学級だより、学校だより及び通知表等は児童生徒の様子や学校の情報を適切に伝えている。	50	50	100%	0	0	0	100%	0ポイント
11 保護者面談及び病棟懇談会から得た児童生徒に関する情報を有効に活用している。	38.9	61.1	100%	0	0	0	100%	0ポイント
12 児童生徒に望ましい生活習慣が身につくように指導している。	36.1	58.3	94.4%	2.8	0	2.8	100%	-5.6ポイント
13 児童・生徒の実態や特性に応じた生徒指導を行っている。	52.8	47.2	100%	0	0	0	100%	0ポイント
14 いじめの実態把握のためのアンケートや個別相談等の対応を適宜行っている。	55.6	44.4	100%	0	0	0	100%	0ポイント
15 児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分にとれている。	22.2	69.4	91.6%	8.3	0	0	94%	-2.4ポイント
16 児童生徒への進路に関する情報提供は適切である。	36.1	61.1	97.2%	2.8	0	0	100%	-2.8ポイント
17 体験学習(進路体験等)は児童生徒の卒業後を見据えたものになっている。	38.9	58.3	97.2%	0	0	2.8	97%	0.2ポイント
18 児童生徒及び教職員の個人情報を適切に管理している。	58.3	41.7	100%	0	0	0	100%	0ポイント
19 円滑な学校運営のための連絡・調整は適切である。	25	69.4	94.4%	2.8	2.8	0	92%	2.4ポイント
20 会議内容は充実しており、年間を通して会議を精選している。	16.7	72.2	88.9%	11.1	0	0	92%	-3.1ポイント
21 日頃から、服務にあたっては信頼されるよう努めている。	50	50	100%	0	0	0	100%	0ポイント
22 施設設備の整備を適切に行い、安全を確保している。	52.8	47.2	100%	0	0	0	97%	3ポイント
23 教室環境は安全で清潔である。	50	47.2	97.2%	0	0	2.8	100%	-2.8ポイント
24 児童生徒の心身の健康保持増進のため、健康管理(健康診断・感染症の予防等)や救急体制の整備を行っている。	63.9	36.1	100%	0	0	0	100%	0ポイント
25 災害時や緊急時の迅速な対応のため、マニュアルの整備、防災・不審者対応訓練等を適切に行っている。	61.1	38.9	100%	0	0	0	97%	3ポイント
26 医療的ケアに関して看護師との連携は十分にとれている。	38.9	61.1	100%	0	0	0	100%	0ポイント
27 安心・安全な給食を提供し、実態に応じた給食指導をしている。	41.7	52.8	94.5%	1	0	5.6	100%	-5.5ポイント
28 児童の送迎バスへの乗降については十分な安全配慮をしている。	50	41.7	91.7%	0	0	8.3	100%	-8.3ポイント

(2) 【学校教育目標の本年度の努力事項】に

評価項目		A よくできている	B だいたいできている	A+B』	C あまりできていない	D できていない	E 無回答	R5年度末 A+B	A+B』の R5年度末比改善率
29	児童生徒の能力と可能性を伸ばす教育の実践と研究について。	25	72.2	97.2%	2.8	0	0	97%	0.2ポイント
30	研修による知識と教育技術の向上について。	33.3	63.9	97.2%	2.8	0	0	94%	3.2ポイント
31	自立活動の概念理解と指導力の向上について。	33.3	66.7	100%	0	0	0	97%	3ポイント
32	障害者理解による児童生徒に寄り添う適切な教育について。	44.4	55.6	100%	0	0	0	100%	0ポイント
33	外部専門家と連携した支援技術の向上について。	41.7	58.3	100%	0	0	0	100%	0ポイント
34	カリキュラムマネジメントによる授業の評価と改善について。	25	75	100%	0	0	0	100%	0ポイント
35	自立活動の実態把握から指導内容にいたるまでの評価について。	27.8	72.2	100%	0	0	0	97%	3ポイント
36	キャリア教育と職業教育の充実について。	25	69.4	94.4%	5.6	0	0	97%	-2.6ポイント
37	個別の指導計画に基づく適切な授業実践について。	36.1	63.9	100%	0	0	0	97%	3ポイント
38	授業実践における三観点別評価の推進。	19.4	66.7	86.1%	11.1	0	2.8	92%	-5.9ポイント
39	心身症、精神疾患の子供への教育支援について。	41.7	55.6	97.3%	2.8	0	0	97%	0.3ポイント
40	一時入院児童生徒への教育支援について。			0%	0	0	0	%	0ポイント
41	就学指導等に関する教育相談機能の充実について。	38.9	58.3	97.2%	0	0	2.8	100%	-2.8ポイント

令和6年度 後期学校評価集計結果(教職員)

(1) 【学校運営】について

評価項目	A よくできている	B だいたいできている	A+B	C あまりできていない	D できていない	E 無回答	R6年度前期 A+B	A+Bの R6年度前期比改善率
1 児童生徒は、楽しく意欲的に学んでいる。	56.3	43.7	100%	0	0	0	100%	0ポイント
2 児童生徒の基本的学力、生活力、豊かな心は向上している	37.5	59.4	96.9%	3.1	0	0	100%	-3.1ポイント
3 教職員と児童生徒との取り組みは、合言葉「明るく・強く・がんばる子」を反映している。	50	46.9	96.9%	3.1	0	0	100%	-3.1ポイント
4 保護者は学校の教育目標、学級の目標及び個人の目標を理解している。	34.4	65.6	100%	0	0	0	100%	0ポイント
5 年間指導計画等を適切に作成することにより、授業時数を確保し計画的に指導を行っている。	50	50	100%	0	0	0	94.4%	5.6ポイント
6 指導方法の工夫・改善を図り、楽しくわかりやすい授業を行っている。	50	46.9	96.9%	3.1	0	0	97.2%	-0.3ポイント
7 児童生徒の実態把握・指導に関して、教職員は共通理解を図っている。	56.3	37.5	93.8%	6.2	0	0	94.5%	-0.7ポイント
8 個別の教育支援計画・個別の指導計画は、児童生徒及び保護者の願い及び教育的ニーズを反映している。	53.1	43.8	96.9%	0	0	3.1	100%	-3.1ポイント
9 保護者・病院職員に対して丁寧（親切）に対応している。	56.3	43.7	100%	0	0	0	100%	0ポイント
10 学級だより、学校だより及び通知表等は児童生徒の様子や学校の情報を適切に伝えている。	56.3	43.7	100%	0	0	0	100%	0ポイント
11 保護者面談及び病棟懇談会から得た児童生徒に関する情報を有効に活用している。	56.3	43.7	100%	0	0	0	100%	0ポイント
12 児童生徒に望ましい生活習慣が身につくように指導している。	37.5	62.5	100%	0	0	0	94.4%	5.6ポイント
13 児童・生徒の実態や特性に応じた生徒指導を行っている。	50	50	100%	0	0	0	100%	0ポイント
14 いじめの実態把握のためのアンケートや個別相談等の対応を適宜行っている。	65.6	34.4	100%	0	0	0	100%	0ポイント
15 児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分にとれている。	34.4	62.5	96.9%	3.1	0	0	91.6%	5.3ポイント
16 児童生徒への進路に関する情報提供は適切である。	18.8	71.9	90.7%	6.2	0	3.1	97.2%	-6.5ポイント
17 体験学習(進路体験等)は児童生徒の卒業後を見据えたものになっている。	34.4	59.4	93.8%	0	0	6.2	97.2%	-3.4ポイント
18 児童生徒及び教職員の個人情報を適切に管理している。	50	50	100%	0	0	0	100%	0ポイント
19 円滑な学校運営のための連絡・調整は適切である。	31.3	59.4	90.7%	6.2	3.1	0	94.4%	-3.7ポイント
20 会議内容は充実しており、年間を通して会議を精選している。	21.9	65.6	87.5%	12.5	0	0	88.9%	-1.4ポイント
21 日頃から、服務にあたっては信頼されるよう努めている。	40.6	59.4	100%	0	0	0	100%	0ポイント
22 施設設備の整備を適切に行い、安全を確保している。	46.9	53.1	100%	0	0	0	100%	0ポイント
23 教室環境は安全で清潔である。	43.7	56.3	100%	0	0	0	97.2%	2.8ポイント
24 児童生徒の心身の健康保持増進のため、健康管理(健康診断・感染症の予防等)や救急体制の整備を行っている。	59.4	37.5	96.9%	0	0	3.1	100%	-3.1ポイント
25 災害時や緊急時の迅速な対応のため、マニュアルの整備、防災・不審者対応訓練等を適切に行っている。	59.4	40.6	100%	0	0	0	100%	0ポイント
26 医療的ケアに関して看護師との連携は十分にとれている。	34.4	59.4	93.8%	6.2	0	0	100%	-6.2ポイント
27 安心・安全な給食を提供し、実態に応じた給食指導をしている。	37.5	56.3	93.8%	0	0	6.2	94.5%	-0.7ポイント
28 児童の送迎バスへの乗降については十分な安全配慮をしている。	59.4	34.4	93.8%	0	0	6.2	91.7%	2.1ポイント

(2) 【学校教育目標の本年度の努力事項】について

評価項目		A よくできている	B だいたいできている	A+B』	C あまりできていない	D できていない	E 無回答	R6年度前期 A+B	A+B』の R5年度末比改善率
29	児童生徒の能力と可能性を伸ばす教育の実践と研究について。	46.9	50	96.9%	3.1	0	0	97.2%	-0.3ポイント
30	研修による知識と教育技術の向上について。	40.7	53.1	93.8%	3.1	0	3.1	97.2%	-3.4ポイント
31	自立活動の概念理解と指導力の向上について。	34.4	59.4	93.8%	3.1	0	3.1	100%	-6.2ポイント
32	障害者理解による児童生徒に寄り添う適切な教育について。	43.8	53.1	96.9%	3.1	0	0	100%	-3.1ポイント
33	外部専門家と連携した支援技術の向上について。	50	50	100%	0	0	0	100%	0ポイント
34	カリキュラムマネジメントによる授業の評価と改善について。	34.4	65.6	100%	0	0	0	100%	0ポイント
35	自立活動の実態把握から指導内容にいたるまでの評価について。	34.4	62.5	96.9%	3.1	0	0	100%	-3.1ポイント
36	キャリア教育と職業教育の充実について。	28.2	65.6	93.8%	3.1	0	3.1	94.4%	-0.6ポイント
37	個別の指導計画に基づく適切な授業実践について。	43.8	53.1	96.9%	3.1	0	0	100%	-3.1ポイント
38	授業実践における三観点別評価の推進。	28.2	62.5	90.7%	9.3	0	0	86.1%	4.6ポイント
39	心身症、精神疾患の子供への教育支援について。	53.2	40.6	93.8%	6.2	0	0	97.3%	-3.5ポイント
40	一時入院児童生徒への教育支援について。	56.3	40.6	96.9%	3.1	0	0		
41	就学指導等に関する教育相談機能の充実について。	50	43.8	93.8%	3.1	0	3.1	97.2%	-3.4ポイント

令和6年度 学校評価集計結果（保護者・回答16/20）

別紙 3

	評価項目	A よくでき ている	B だいたい できてい る	『A+B』	C あまりでき ていない	D できていな い	E わからない	『A+B』の 令和5年度末比 改善率
1	お子さんは、自分の学級・学校生活が楽しいと言って(感じて)いる。	12	3	94%	0	0	1	-3ポイント
2	お子さんは授業が楽しく分かりやすいと言って(感じて)いる。	10	4	88%	0	0	2	-6ポイント
3	お子さんは、確かな学力・生活力・豊かな心情が身につけてきている。	11	3	88%	0	0	2	-3ポイント
4	お子さんは、望ましい生活習慣(自分からあいさつをする/規則正しい生活をする/ルールを守るなど)で過ごしている。	9	5	88%	1	1	0	9ポイント
5	教職員は、お子さんのことをよく理解し、親身に相談に応じたり、一人一人を大切にしたい指導やかかわり方をしている。	14	2	100%	0	0	0	ポイント
6	教職員には、気軽に話しかけたり、相談できる雰囲気がある。	12	4	100%	0	0	0	4ポイント
7	お子さんにとって、有意義な学校行事（文化祭、スポーツ交流会、芸術鑑賞等）が計画されている。	13	3	100%	0	0	0	3ポイント
8	懇談会などで、個別の指導目標や指導の結果・児童生徒の変容などを分かりやすく説明している。	13	3	100%	0	0	0	3ポイント
9	個々の進路や卒業後の生活に関する情報提供や指導を適切に行っている。	10	6	100%	0	0	0	ポイント
10	お子さんの様子や学校の情報が、学級通信・個別面談・連絡帳・通信表・学校だより（紅堂）等により、伝わっている。	14	2	100%	0	0	0	ポイント
11	学校としていじめ問題等の予防や対策に取り組んでいる。	13	3	100%	0	0	0	14ポイント
12	お子さんが安心・安全・快適に学校生活が送れるように、環境整備(安全点検と修理等)と危機管理（避難訓練等）に取り組んでいる。	13	3	100%	0	0	0	ポイント

文章記述

1	お子さんは、自分の学級・学校生活が楽しいと言って(感じて)いる。	・好きな活動など楽しみにしていて「明日は○○する」と口に出して言います。 ・今は進路が決まり、楽しい気持ちしかないと言っています。 ・子どもの様子を見てみると、そう感じ取れる。
2	お子さんは授業が楽しく分かりやすいと言って(感じて)いる。	・少しずつですが確実にできる範囲が広がっています。 ・子どもの様子を見てみると、そう感じ取れる。
3	お子さんは、確かな学力・生活力・豊かな心情が身につけてきている。	・豊かな心情が育っていることを日々感じております。 ・友人の調子が悪い時など家でも心配してずっと話しています。 ・子どもの様子を見てみると、そう感じ取れる。
4	お子さんは、学校外でも望ましい生活習慣(自分からあいさつをする/規則正しい生活をする/ルールを守るなど)で過ごしている。	・連絡ノートなどでいつもお知らせいただいています。 ・学校では頑張っていると思います。 ・時々、声かけしているので…。
5	教職員は、お子さんのことをよく理解し、親身に相談に応じたり、一人一人を大切にしたい指導やかかわり方をしている。	・一日の様子を細かに連絡ノートでお知らせいただいています。
6	教職員には、気軽に話しかけたり、相談できる雰囲気がある。	・何かあればその都度お話できます。
7	お子さんにとって、有意義な学校行事（文化祭、スポーツ交流会、芸術鑑賞等）が計画されている。	・音楽の鑑賞会などは、長い期間、家庭で話題になったりします。
8	懇談会などで、個別の指導目標や指導の結果・児童生徒の変容などを分かりやすく説明している。	・変化や反応など、その都度、連絡ノートですぐ報告してもらっている。
9	個々の進路や卒業後の生活に関する情報提供や指導を適切に行っている。	・先輩たちの情報は、その都度、プリント等で知らされている。
10	お子さんの様子や学校の情報が、学級通信・個別面談・連絡帳・通信表・学校だより（紅堂）等により、伝わっている。	・しっかり伝わっています。
11	学校としていじめ問題等の予防や対策に取り組んでいる。	・先生方の目が広く注がれていて、その都度、指導されていると思います。
12	児童生徒が安心・安全・快適に学校生活が送れるように、環境整備(安全点検と修理等)と危機管理（避難訓練等）に取り組んでいる。	・定期的に訓練が行われていて、理解ができていると思います。
自由記述	学校に対するご意見・ご要望等 ・今後とも、よろしく願います。 ・いつもありがとうございます！	

	設問	○成果・意見 ▼検討事項 ★次年度に向け検討した内容
(1) 【学校運営】		
	設問 2 児童生徒の基本的学力，生 活力・豊かな心情は向上し ている。	・ 児童生徒の実態に応じてた指導内容、手だてや工夫が一層必要だと感じている。
	設問 4 学校の教育目標，学級の目 標及び個人の目標が，保護 者に理解されるような取り 組みを行っている。	○懇談会や保護者面談の機会を設定し、学校教育目標や個人目標について説明をし理解を得ている。
一 教 育 課	設問5 年間指導計画等を適切に作 成することにより，授業時 数を確保し計画的に指導を 行っている。	▼年間指導計画の作成，系統的な指導のためにも日生，生単の教科外部会も必要かと思う。 ↓ ★生単はR 6 より，全学部で扱われるようになったことから， R 7 から生単部会を組織する方向で検討する。
	設問6 指導方法の工夫・改善を図 り，楽しくわかりやすい授 業を行っている。	・ 児童生徒の実態に応じてた指導内容、手だてや工夫が一層必要だと感じている。

程 に つ い て	設問7 児童生徒の実態把握・指導 に関して、教職員は共通理 解を図っている。	○校内研究グループ内で実態把握と指導について共通理解を図る場をもつことができた。 ・教員個々の指導力の向上が今後も必要だと感じている。 ・職員室で日常的に生徒に関する話を交わしたり相談したりする雰囲気できていないように感じる。 ・高等部では生徒の情報交換会を行っているが、十分とは言えない。会の回数などの問題ではなく、教科等の担当者一人一人の実践力が課題と考える。
	設問8 個別の教育支援計画・個別 の指導計画は、児童生徒及 び保護者の願い及び教育的 ニーズを反映している。	○高等部では、Bコース生徒の共通理解の場を設定したことはよいことだと思う。今後も継続してより充実したものにしていきたい。 ・高等部では教科担当で情報交換の場をもったが、共通理解できたとは言いがたい。教科以外でも互いの指導に助言し合うことになれておらず、受け入れられない風土があることを感じる。 ↓ ★今後も情報交換会等を続ける。その際、支援計画や個別の指導計画等も参照しながら取り組む。 ・学部の「生徒の様子等」でも、コース・担当からの報告に終わることなく、情報交換となるように深めていく。
	設問10 学級だより、学校だより及 び通知表等は児童生徒の様 子や学校の情報を適切に伝 えている。	・よい面はもちろんだが、問題行動が見られたときは面談や電話等で報告や協力をお願いすることもタイミングよく行うことも必要と感じる。
	設問11 保護者面談及び病棟懇談会 から得た児童生徒に関する 情報を有効に活用してい る。	○新しい情報があると、すぐ学部内で共有するようにしている。 ▼病院との連携をとるのであれば、教員と主治医との面談を実現してほしい。それなしでより適切な進路指導ができるのか疑問。生徒の思いを後押ししたくとも、主治医の考えがどうなのか、と考えてしまう。本校は病院併設で、物理的には距離が近いのに、医師の存在がとても遠いと感じている。 ↓ ★病棟との連携とは、主治医からの指示を受けた師長はじめ病棟スタッフとの連携、が基本と考えている。年3回設定されている病棟懇談会の他、コロナの制限がなくなり、病棟に自由に入出りできるようになった現在、日々の病棟スタッフとの連携から積極的に情報を得て指導に有効に活用してほしい。もちろん、個別の事情や状況があり、対応が必要な場合は、個別のケースとして面談等を設定することも含め対応は相談したい。

	<p>設問15</p> <p>児童・生徒間のコミュニケーション・交流は十分にとれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒間のコミュニケーションというのは、行事中心に行っているが、それ以外となるとなかなか難しいのが現状。 ・生徒指導部では的確に業務を推進しています。
「進路指導」について	<p>設問16</p> <p>児童生徒への進路に関する情報提供は適切である。</p>	<p>▼夏休み期間の進路面談がなくなったが、せめて高等部だけでも生徒・保護者に進路・卒業後の生活に対する意識づけの機会をもつ必要性を感じる。検討してほしい。</p> <p>↓</p> <p>★今年度は夏季に限らず、いつでも相談を受ける方針で面談を行ってきたが、次年度は夏季相談会の機会を設け、保護者の希望に応じて面談をもつ。</p> <p>▼進路に関する保護者説明会の開催を希望したい。保護者の個々のニーズに応じていくという方針は、全体での情報提供をした上で成立するものだと思う。</p> <p>↓</p> <p>★中学部では進路指導部と連携し、①進路指導部員を含めた進路ケース会の実施、②希望する保護者に進路相談会の実施、③中3のみ2回の進路希望調査の実施に取り組む。</p> <p>★4月の父母教師会総会の後に、高等部保護者を対象に高等部での進路指導の流れ等について話をする進路説明会を実施したい。</p>
	<p>設問17</p> <p>体験学習(進路体験等)は児童生徒の卒業後を見据えたものになっている。</p>	<p>○高等部、前期進路体験週間で、外部の事業所等で体験ができてよかったと思う。本人や保護者の方たちが、卒業後の進路を考えるために役立つと思う。</p> <p>○高等部進路体験週間の新たな試み（西多賀作業所）はよいと思う。</p>
	<p>設問19</p> <p>円滑な学校運営のための連絡・調整は適切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点をオブラートに包みすぎて、当該教員が認識できず改善されない。生徒や学校全体のことを考えて改善しようとする、指摘した方が悪いように扱われる傾向にある。配慮の必要な教員がいるのなら、問題点に目をつぶるのではなく改善策を考える場をもつ、それがだめなら管理職が個別に改善するよう対応する必要があると思う。他の教員の仕事が一部の誰かに集中してもしかたがないということだろうか。 ・校務分掌の適切な配置について疑問を感じる。十分に機能していない分掌等もあると思う。

<p>設問20</p> <p>会議内容は充実しており、年間を通して会議を精選している。</p>	<p>○会議の精選について、年々進められていると感じる。</p> <p>▼企画委員会は参加メンバーが多く職員会議との違いをあまり感じない。教科部会 教科外部会も学期に1, 2回とし必要に応じて各部会で開催することに対応できるのではないかと。</p> <p>・「内容が充実」という点では、改善が必要だと思う。職員会議などで意見がほとんど出ないのは、われわれ教員の意識が低いからだと思う。</p> <p>↓</p> <p>★企画委員会で検討されたことで差し戻しや案の修正なども行われており、今後も従来通り実施していく。</p> <p>▼文化祭実行委員会をもう少し現状に合わせて縮小しても良いのではないかと。メンバーや会議内容の精選など検討してほしい。</p> <p>↓</p> <p>★今年度の振り返りをもとに、文化祭実行委員会を機動的に動けるように縮小する。</p> <p>▼全体での朝の打ち合わせは当日確認することがある場合のみ行うよう検討してほしい。</p> <p>↓</p> <p>★次年度に向けた検討課題とする。</p>
<p>設問25</p> <p>災害時や緊急時の迅速な対応のため、マニュアルの整備、防災・不審者対応訓練等を適切に行っている。</p>	<p>○適切な講習会等の実施から情報を共有できて助かっています。</p> <p>▼不審者に退去を求めることができるのか、さすまたは有効なのか、実際の場面を想定した未然防止や通報訓練の視点もプラスしてはどうか。</p> <p>▼避難訓練時などで階段で車椅子を下ろす場合、車椅子に荷物を乗せないことや、車椅子を動かさないときはこまめにストッパーで固定するなど、基本的な安全面について、改めて全員で確認し合える場について検討してほしい。</p> <p>↓</p> <p>★各学部ごとに防災面での情報データに上書きしてもらう機会を設ける一方、移乗訓練の前に車椅子を持ち上げる箇所等にテープを貼ってもらうように依頼するなど、事前の共通理解はある程度実施できていると考えているが、研修会の持ち方や内容について、今後も検討しながら必要な情報や訓練が実施できるよう工夫していく。</p> <p>▼病棟との連絡通路を通して来校される方（卒業生）への対応はどのようになっているのか。自由に見学してもらいたい一方で、不審者侵入の危険も含んでいると思う。</p> <p>↓</p> <p>★病棟との通口について、次年度からは児童生徒の在中時間は、安全管理のため原則施錠することとし、児童生徒の登下校時間の解錠の方法等など、具体については今後検討する。</p>

「知病併置」について	設問26 医療的ケアに関して看護師との連携は十分にとれている。	○教員と看護師の役割が徐々にできてきている様に思う。医療行為の部分は看護師、それ以外の生活に関わる場所は教員が行い、迷う時は医ケアコーディネーターに相談してどうするかを検討できていると思う。 ・教員と看護師の勤務体系の違いなどにより、タイミングや機会をタイムリーに捉えることが難しく、看護師と教員が児童生徒について互いに気付いたことを共有しながら連携していく難しさを感じている。
	設問27 安心・安全な給食を提供し、実態に応じた給食指導をしている。	○給食担当の先生方には、食器の汚れや異物の混入がないかなどをしっかりと確認していただいているおかげで、安心・安全な給食の提供ができています。ありがとうございます。
（２）【学校教育目標の本年度の努力事項】 各学部，各分掌部で今学期取り組んだことや，今後の取組に関しての提案等		
「特別支援教育の専門性の向上」	設問29 児童生徒の能力と可能性を伸ばす教育の実践と研究について。	・各自の研鑽が必要だと思う。 ・教員一人一人の努力がより一層必要だと思う。
	設問30 研修による知識と教育技術の向上について。	○研修などに参加して、少しずつ向上を目指している。 ・すぐ実践できるような研修内容がよいと思う。 ▼研修会について、相手があることなのでやむを得ないが、分掌ごとに研修会を設定しているので同じ日に2つの研修会が重なるなどあった。研究部でまとめて分野関係なく先生方にニーズを聞き取り、ニーズの高いものを分掌に割り振って研修会を設定してはどうか？ ↓ ★必要な回数、内容について各分掌部チーフが集まって検討し、R 7は校内での研修会の回数を減らし、必要と思われる研修については積極的に外部の研修会も活用していく。
	設問31 自立活動の概念理解と指導力の向上について。	・教員一人一人の努力がより一層必要だと思う。

ー	設問32 障害者理解による児童生徒に寄り添う適切な教育について。	・教員一人一人の努力がより一層必要だと思う。
ー 学 習 内 容 の 改 善 と 充 実 ー	設問34 カリキュラムマネジメントによる授業の評価と改善について。	○児童の実態を考慮しながら改善に取り組んでいると思います。
	設問35 自立活動の実態把握から指導内容にいたるまでの評価について。	・教員一人一人の努力がより一層必要だと思う。
	設問37 個別の指導計画に基づく適切な授業実践について。	・設問38と合わせて→3 観点別評価について整えつつあり現在進行中。個別の指導計画に基づく適切な授業実践とともに、我々ベテランといわれる教員が独りよがりにならないよう意識改革できるかどうかしだいと思う。 ・教員一人一人の努力がより一層必要だと思う。
	設問38 授業実践における三観点別評価の推進	・教員一人一人の努力がより一層必要だと思う。 ・準ずる教育課程においては、教室に一人の環境下では、対話的、協働的な授業が難しい。その状況を克服するためにも、授業内でA Iなどの活用が必要で、環境整備と教員のI C T活用の技量を高める必要がある。 ↓ ★準ずる教育課程での観点別評価のみならず、文章での評価を実施する教育課程での三観点を踏まえた評価についても含め、学校全体で評価の質を高められるような方法や機会の設定に努める。
	設問40 一時入院児童生徒への教育支援について。	・学習空白を最小限に抑えるため、オンライン授業をするなど、在籍校の努力も必要と考える。 ▼支援はできていると思われるが、「聴講生」という名称は変更した方がよいと思う。「聴講」は児童生徒が在籍している教育課程にのみ該当する言葉だと思う。 ↓ ★準ずる教育課程に在籍がなくとも「教科指導の学習支援」を希望する短期入院生に対して可能な範囲で学習支援を行っていくための体制を、今年度の受け入れ体制や方法を基本として継続していく。名称については「短期入院生への学習支援」とする。